



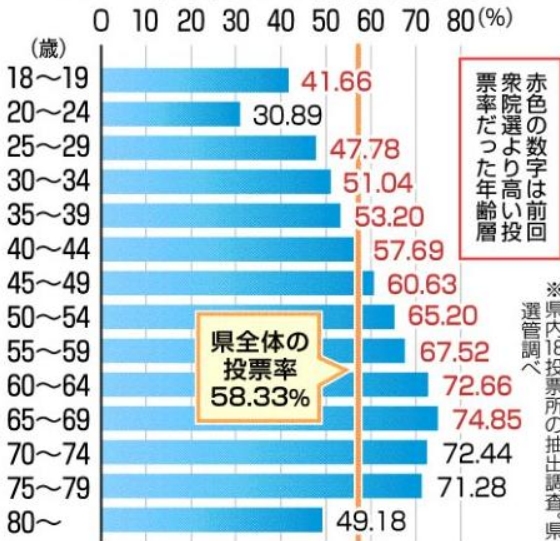
年齢別投票率

多くの層で前回より上昇

最低は20～24歳 30.89%

最高は65～69歳 74.85%

2026年衆院選の年齢層別投票率



2026
衆院選
おおい

県選挙管理委員会は、2月に投票があった衆院選の年齢別投票率を公表した。5歳ごとの年齢層で見ると、20～24歳が30・89%で最も低く、65～69歳が74・85%で最も高かった。2024年10月の前回衆院選から全体の投票率が上がったこともあり、多くの年齢層で上昇した。

県全体の投票率は58・33%で、40代前半までの年齢層はいずれも下回った。10～20代の若年層では、年齢別で18歳の54・98%が最も高く、受験シーズンと重なったにもかかわらず前回と比べて9・96%上がった。



投票する有権者 2月8日、大分市

最も低かったのは20歳の24・49%(4・88%減)。20代後半から30代後半までの年齢層は、投票率が比較的低いものの前回より大きくアップした。最も伸びたのは35～39歳で10・11%増。続いて25～29歳が8・46%、30～34歳が7・11%それぞれ上がった。18～19歳と、40、50、60代も上昇した。一方、20～24歳は1・51%下がり、70代以上の各年齢層も低下した。

投票日の啓発に取り組んだ。「全国と同様に若い世代の投票率が低い傾向。来年の統一地方選は知事や県議などを選ぶ、より身近な選挙。投票につながる広報を進めたい」と話した。

調査は小選挙区の投票が対象。県内の54投票所のうち、18市町村で標準的な投票率を示す投票所を1カ所ずつ抽出し、計18投票所の結果をまとめた。全体の投票率は県内の全投票所の数値。2024年衆院選は55・42%。



〔問①〕下の表の空欄を埋めてください。大分県の年代別投票率と各年代の投票率が大分県全体の投票率より何ポイント「高い」か「低い」かを書いてください。（小数点第2位まで）

年代	2026年衆院選の投票率	大分県全体との比較
18～19歳	(41.66) %	全体より (16.67) ポイント高い (低い)
20～24歳	(30.89) %	全体より (27.44) ポイント高い・(低い)
65～69歳	(74.85) %	全体より (16.52) ポイント(高い) 低い

〔問②〕前回の衆院選に比べて上昇幅が大きかった年代の上位3つと上昇幅を書き出しててください。（小数点第2位まで）

1位. (35 ～ 39) 歳 前回より (10.11) ポイントアップ
 2位. (25 ～ 29) 歳 前回より (8.46) ポイントアップ
 3位. (30 ～ 34) 歳 前回より (7.11) ポイントアップ

〔問③〕18～19歳に比べ、20～24歳の投票率は低くなっています。なぜ20代前半になると投票率が下がる傾向にあるのでしょうか。予想される理由を書きましょう。

18・19歳は高校での主権者教育を受けていて意識が高い、住民票が実家にある人が多いので投票に行きやすい環境がある。一方で20代前半は、進学や就職による転居で住民票を移していなかったり、新しい生活の忙しさから選挙への関心が低下したりするためと考えられる。

〔問④〕グラフが示すように、若年層の投票率が低く、高齢層の投票率が高い状態が続くと、国が作る法律や予算の使い道にはどのような可能性が生まれると考えられますか。あなたの考えをまとめてください。

政治家は票の多い高齢層の意見を重視しやすくなる可能性がある。その結果、例えば子育て支援や教育への予算配分よりも、医療や年金制度の維持などが優先されるといったことが考えられる。